

必勝！ 入試直前アドバイス【英語】

＝ センター試験対策 ＝

現在、模試得点160点以上の場合-----

- ▷ 記述力の養成こそ、最高のセンター試験対策。
- ▷ センターオンリーの学習は12月後半から始める。
- ▷ 「時間との勝負」を意識し、本番より5分～10分短い時間での解答を心がける。
- ▷ 一方、時間短縮を意識しすぎてケアレスミスを犯さないように注意すること。
- ▷ 第1・2問の小問を落とさないように、基本事項の知識を完成しておく。
- ▷ リスニングにおいて、簡単な解説文・評論文なら一度聞いただけで理解できるようにしておく。

現在、模試得点120点以上の場合-----

- ▷ 記述問題をこなして「総合力」を身につける。
- ▷ 今まで使ってきたテキスト&問題集&模試を繰り返し復習する。
- ▷ その上で、センタータイプの問題演習をメインにした学習へ。
- ▷ センター過去問は、時間を計ってやる。
- ▷ 配点の高い問題を落とさないように、解答手順と解法を確立する。
- ▷ リスニングでは、いったん述べられた情報の修正に混乱しないように。

現在、模試得点120点未満の場合-----

- ▷ 授業でやったテキストを柱にして学習を進める。
- ▷ 12月に入ったら、テキストの復習とセンター演習（制限時間を守る）を3：7で。
- ▷ マーク模試では、正解以外の選択肢にも目を向け、それぞれの検討もしっかり行うようにする。
- ▷ マーク模試をやり直す。正確な日本語訳をすること。
- ▷ 直前で十分に得点力をアップさせる学習が可能な分野・項目。基本単語の発音やアクセント法則、会話の定型表現、基本的な文法・語法問題、整序英作文についても特に動詞の語法（ある動詞の前後にどのような形がくるのか）やイディオムや基本的な構文の知識を増強することで、かなりの得点アップが期待できる。

＝ 二次・私大対策 ＝

現在、模試偏差値60以上の場合-----

- ▷ 難関大学であれば、過去問演習に力を入れる。センター後に2次対策を再開したのでは間に合わない。
- ▷ センター対策前に、どれだけ中身の濃い記述対策ができるかが鍵である。
- ▷ 授業で使用したテキストの復習に、「英語長文問題精講」（旺文社）のような問題集も加え、英文読解力の構築に努める。
- ▷ 英作文（和文英訳、自由作文）は差のつく分野。しっかり対策を立てる。
- ▷ 7割の正答率をめざし、二度三度と制限時間を短くしながら繰り返すこと。
- ▷ 自分の志望学部以外の過去問もこなす。
- ▷ ただ同じように「全文を解釈していく」のではなく、設問の要求に応じて、読み方を変え、要求されている事項を的確につかむ訓練をする。
- ▷ 話の流れを的確につかむために、段落や意味のまとまりごとにメモを取る。

現在、模試偏差値50前後の場合-----

- ▷ 英文読解力をどれだけ伸ばせるかが鍵。過去問の長文を、内容も含めて徹底的に理解する。
- ▷ 文法の出題がほとんどないからと言って、文法・語法を軽視しないこと。これがしっかりと身につけていないと、正確な読み方ができない。私大志望者は過去問以外にも文法・語法の問題集をこなすこと。
- ▷ 「自由英作文」は添削してもらおう。これまでやった作文を、内容も含めて修正することも大切。
- ▷ 「和文英訳」は過去問10年分を完璧にすること。加えて、これまでやってきたテキスト・模試・問題集を見直すこと。

現在、模試偏差値45未満の場合-----

- ▷ テキスト、模試の英文をもう一度見直し、あやふやな部分を再確認し、重要なポイントは書いて覚え、最後は声に出して読んでその英文を自分のものにするようにする。
- ▷ センター後は即、志望校の記述対策を開始する。
- ▷ 毎日1つ、まとまった英文を読むこと。授業のテキストでも過去問でもかまわない。制限時間を決めて、辞書使用は最低限にして内容把握を中心に読み進む練習を。
- ▷ 文法・語法問題がある人は大学によって出題形式が異なるので過去問を調べて独自のスタイルを知っておく必要がある。一方で運用度の高い基本例文や定型表現をツールとして仕込んでおくことが不可欠。

必勝！ 入試直前アドバイス【国語】

＝ センター試験対策 ＝

現在、模試得点160点以上の場合-----

- ▷ とにかく多くの過去問や類題を解いていく。
- ▷ 時間を決めて、その時間より早く終わらせるように意識する。
- ▷ 紛らわしい選択肢の識別ポイントを整理しておく。
- ▷ 語彙の問題で得点がパーフェクトでない場合、過去問の語彙の問題だけ集中的に全部解いてみる。
- ▷ 大問4題を2題ずつに分け、40分ずつで解く練習をする。
- ▷ センター現古漢、いずれも選択肢のチェックは横に(選択肢①～⑤)みること(例えば古文なら同じ古語の訳し方のちがいなど)。これで2/5くらいに選択肢は絞られる。残ったものは、最後に必ず「たてに」読む。

現在、模試得点120点以上の場合-----

- ▷ 実際に時間をはかり、時間配分でミスしないように訓練しておくこと。
- ▷ 時間内に解けない場合は、どこで時間短縮をすればいいのか大問の中の解く順や一問あたりの解答時間を決める。
- ▷ 間違えたところは解説を読み、なぜ、違っていたかということを選択肢の横に書き込む。
- ▷ 模試などで、間違った問題を復習し、まだ覚えていないこと、応用的に使えていない知識の充実をはかる。
- ▷ 確実にあと5点ほしい場合、漢文の句形と語句の意味をきっちり覚えるとよい。
- ▷ ここまで来て壁にぶつかっている場合、一番良かった模試、テキストの、自分のチェックの仕方を見直す。調子の良かった時の自分は何をキーワードにしていたか思い出せる。
- ▷ 自分の弱点を見つける。文法でも内容合致でも、それに合わせて+αの力をつけていく。文法なら、まず問題集で徹底的に確認していく。内容合致ならば、まず、傍線部が含まれている段落の内容を正確につかむことと、選択肢は細部まで確認すること。
- ▷ 選択肢のポイントはまず、文末！最終的な答はまず文末にあり！

現在、模試得点120点未満の場合-----

- ▷ 基礎の確立。現代文では段落の読みにこだわること。古文では「文法」と「語句」、漢文では「句法」と「重要語句」を完璧にする。
- ▷ 過去問を解き、文章の内容を理解することに重点をおく。傍線部の前後からでも何とか解答を導き出せるようにする。
- ▷ 調子が悪いと思う時は、既習のものをもう一度解いてみる。「できる」というイメージを取り戻すように。
- ▷ 必ず答えは本文にある。本文をきっちり読み取るようにすること。古文も漢文も過去問や類題で自分が得点しづらい問題をしっかり確認しながら今までの復習をし、苦手な問題はくり返して解き、必ず正解に結びつける。

＝ 二次・私大対策 ＝

現在、模試偏差値60以上の場合-----

- ▷ 多くの問題を解き、抽象的な文章でも、きちんと読み取れるように慣れておく。
- ▷ 設問文の中から、得点の高いポイントとなる語句を押さえて記述する。
- ▷ 設問から、何を求めているのかをしっかりと見据え、答えを導き出す。
- ▷ 正確で、わかりやすい文章の記述を心がける。
- ▷ 添削指導を受け、記述解答の対策を充分に行う。
- ▷ 高得点と思われる記述ポイントから解答を作ってみる。

現在、模試偏差値50前後の場合-----

- ▷ 志望大学の過去問最低10年分と同等レベルの大学の問題にあたる。
- ▷ 過去問・解答例を見て、得点ポイントを確認する。
- ▷ 全体の要旨をきちんと把握し、設問に答えるためのキーワードを確実に見つけられるように訓練する。
- ▷ 字数制限があるものも、まず、得点となるポイントを解答に盛り込みながら、長めに書いてから削除していく。
- ▷ 答えは本文の中に必ずあるので、丁寧に読んでいくことを心がける。
- ▷ 傍線部にこだわること。現代文では「どの言葉がポイントか」、古文では「徹底的に品詞分解し、一語の意味も落とさない」、漢文では「句法、語句」を用いた解釈や説明が求められる。

現在、模試偏差値45未満の場合-----

- ▷ 過去問を解いて、知識レベルで、自分に欠けているものを押さえ、基礎の充実をはかる。
- ▷ 漢字の弱い人はとにかく書いて覚える。
- ▷ 志望大学で頻出のジャンルの文章を読んでおく。
- ▷ 現代文は焦らずに丁寧に読み取る。
- ▷ 設問で問われていることと書くべきことを一致させる。
- ▷ 古文は口語訳を中心に得点を取りに行く。
- ▷ 漢文は句形と重要語を徹底してマスターする。

必勝！ 入試直前アドバイス【 数学 】

= センター試験対策 =

現在、模試得点160点以上の場合-----

- ▷ ひたすら演習あるのみ。「200点」満点をねらうこと。数学の満点はねらうことに意味がある。「プライド」と「意地」で満点を取れ！
- ▷ 数学は、「慣れ」に依る部分が多い。二次力を高めようとセンター試験対策を疎かにしてはいけない。力のある人ほど、演習を積んで満点を狙う意識が必要。やらなければすぐにカンが鈍っていく事を忘れてはならない。
- ▷ 各大問の最後のブランクを埋められるかどうか勝負。問題を解き終わった後には、必ず間違いをチェックする。マークは、直後の復習が大事。一度読んだだけで理解できたら、あとはセンター試験の1週間前に見直すだけでよい。
- ▷ 二次重視の大学を志望している人も、1カ月前からはセンター試験の対策をメインにやっていくこと。

現在、模試得点120点以上の場合-----

- ▷ 演習あるのみ。各大問の最後のブランク以外は埋めるという意識が大切。最初は基本的なことが分かっているならば十分に受けられるが、後のブランクは演習量がものをいう。
- ▷ 60分の時間を図って解くのもいいが、1カ月前までは、大問ごとの演習をこなすのがベスト。分野を集中して解くことで、理解度が深まる。
- ▷ 仮に、各大問の最後の空欄を捨てていっても、それ以外を全部解ければ80点以上にはなる。あとは時間と相談してそこに上積みしていくと考えよう。最初から満点を狙わずに気楽に進めるだけで、劇的に点数は変わる。
- ▷ 年明けの直前期は、それまでに解いた問題の総復習。過去にどんな間違いをしていたか総チェック。

現在、模試得点120点未満の場合-----

- ▷ 近年難しい年もあるが、基本事項を押さえておけば、6割は取れる試験であることを忘れてはいけない。その意識を持つことが大切。
- ▷ 大問毎のブランクの埋め具合がどうかを意識して、この分野なら完答できる、という分野をI A、II B各一つずつは作りたい。最後まで埋まらないかもしれないが、それを最初に解くことで、試験のリズムに乗れる。こういったことも大事。
- ▷ 計算は嫌がらずにやるのが大切。センター試験は計算力がないとキツイところもある。とにかく手を動かし試すこと。そこから学習もできる。
- ▷ 各大問のブランクの3/4は埋める。これを目標にしておけば、7割から8割は狙える。

= 二次・私大対策 =

現在、模試偏差値60以上の場合-----

- ▷ 赤本等で過去問は十分に解いたと思うが、同レベル、同分野の他大学の問題を解くのがいい練習になる。その際、大学の名前にとらわれず、数学の問題レベルを意識して選ぶこと。
- ▷ 各大学ごとに、頻出分野の解法パターンを整理し、深くつつこんだ問題演習を行う。また、それ以外の分野も浅くてもよいから対策をとる。
- ▷ 理系は差のつく数学IIIを徹底的に学習すること。計算のスピードを意識し、ミスをしていない訓練をすること。必ず他に差をつけられるようになる。
- ▷ 添削指導などで記述の答案作成練習をしっかりと行う。
- ▷ 演習の際には、必ず直前期演習ノートを作ること。達成感が得られる。

現在、模試偏差値50前後の場合-----

- ▷ 数学II B型の方は、センターと二次私大の範囲が重なるので、難易度の差はあれ、まずはセンター対策で数学II Bを中心に基本事項や解法パターンの確認。
- ▷ その際、志望校に頻出の分野は徹底的に演習し、確実に得点できるようにする。
- ▷ センター後は数学的帰納法や背理法などセンターでは問われない証明問題の演習をしっかりとやる。答案作成をして記述に間違いがないかチェックする。
- ▷ 数学III型の方は、数IIIで合否が決まる。積分を中心に記述対策をすること。
- ▷ 極限を軽視している人もいるが、案外そこで差がつく。しっかり対策を。
- ▷ 以上のことを踏まえ、答案作成練習をしていくこと。
- ▷ 自分の志望大学のレベルより少し上の入試問題を、たくさんでなくてもいいので解くこと。解答を書く訓練と解法の引き出しを増やしていく。

現在、模試偏差値45未満の場合-----

- ▷ まずテキストの復習を行い、解法のパターンや流れを再確認の上、頭にたたき込んでいく。とにかく覚えること。
- ▷ 数学II B型の方はセンターより少し上のレベルの問題を確実に解けるようになることが目標。
- ▷ 証明問題なども含めて、答案を作る練習をするが、センター試験で出題されない問題形式も練習すること。センター対策に偏って学習していた場合は、なおさら。
- ▷ 数学III型の方は、まず微分や積分の計算練習を行い、グラフを素早く書く訓練を繰り返すこと。これだけでも得点できる問題も出題されている。
- ▷ 基本問題を再確認。必ず解かなくてはならない問題を落とすことのないよう、頻出問題を徹底演習する。

必勝！ 入試直前アドバイス【 地理歴史・公民 】

＝ センター試験対策 ＝

現在、模試得点80点以上の場合

- ▷ 現在、模試で80点以上が取れている場合、過去問や模試の復習に、そう多くの時間をかける必要はない。一通り解答し、間違った選択肢、迷った選択肢を解答解説で確認するだけで、精度を上げていくことができるはずである。短時間で集中した学習を心がけること。
- ▷ テキストを重視すること。用語への理解が深まれば、難易度の高い問題でも十分対応できる。問題演習に偏らず、テキストの通読もときどきやっておくこと。
- ▷ 模試での高得点の影で、弱点分野・苦手分野を見過ごしてきてはいないか。これまでやった過去問・模試を何度も見直し、弱点・苦手を克服しておくこと。
- ▷ 難易度の高い問題でも、問題文中や資料にヒントがあるはずである。ヒントを見逃さず、考察できるよう意識した問題演習を心がけること。

現在、模試得点60点以上の場合

- ▷ 過去問やこれまでやった模試を再度解答してみることで、重要事項・頻出事項の確認となり、自分の弱点分野が見えてくるはずである。
- ▷ 早とちりしたり、ケアレスミスで失点する場合も多い。問題文を正確に読み取っているか、答え合わせの時に確認すること。
- ▷ 用語の理解は十分できているか、確認すること。用語は、内容を適確に理解していなければ、選択肢を絞ることはできない。結局カンで解いているようでは、高得点は望めない。まずは基本に帰り、テキストで用語の意味や背景・影響など十分な理解をすること。
- ▷ マーク式だからと言って、理解が浅くても得点になるということはない。漢字で覚えるべきところは、漢字で書いて理解して、初めて使える知識となる。手抜きをすることは、これ以上の伸びは望めないと心得ること。

現在、模試得点60点未満の場合

- ▷ まずは、過去問・模試を解く回数を増やすこと。回数をこなすことによって、多くの分野を網羅でき、苦手分野の発掘、頻出問題の理解にもつながるはずである。
- ▷ 60点未満の人は、勉強の仕方が悪いのではなく、単に勉強の量が不足しているに過ぎない。他教科とのバランスを考えて、いかに勉強時間を確保するかを検討すること。
- ▷ カンではなく、根拠を持って問題集を解くこと。復習の際には、自信を持って○または×にできない選択肢は、どこが違っているのかまで粘って学習すること。
- ▷ 一問一答式の問題集も良いが、多くの用語を生半可に覚えるだけでは、実際のセンター試験では混乱するばかりである。用語はテキストを使い、その意味のみならず、背景・目的・結果・影響まで理解すること。

＝ 二次・私大対策 ＝

現在、模試偏差値60以上の場合

- ▷ 設問文で問われている内容をきちんと把握すること。設問文の意図が読めずに、得点にならない解答をしてはいないか？これまでの模試・問題集等での自分の答案をもう一度読んでみる。
- ▷ 学習が進んでいなかった段階での答案には、白紙のまま提出したものもあつたらう。現時点での学習進度は常に把握しておきたい。
- ▷ 演習が進むと、より難しい問題を求める傾向がある。しかしその前に、基本用語の正しい意味、正しい使い方ができているか、後でまとめて学習することができないからこそ、問題演習をしながら確認しておきたい。
- ▷ 模試での高得点に気をよくし、苦手分野を放置していないか？過去問を10年分解き、苦手分野は必ず克服しておくこと。
- ▷ 初見史料・資料を怖れずに！ 史料・資料から自分の知っている用語や事実を探し、ヒントを得る。出典や脚注、設問文自体にもヒントが書かれている。

現在、模試偏差値50前後の場合

- ▷ テキスト中心の学習をこころがける。問題集や模試に偏らずに、時々、テキストではどう記述されているかを確認すること。
- ▷ 基本用語の意味は把握できているか？聞いたこともない用語は出ない。しかし、「聞いたことがある」程度では、その用語を使って解答を作ることはできない。用語はちゃんと使える様に、テキストでその使い方を把握すること。
- ▷ 模試解答解説・統計集を再読し、正答率の高い問題を落としていないかを確認する。定番・基本・頻出問題での取りこぼしを避け、効率の良い得点を心がけたい。
- ▷ テキストとともに、資料集・地図帳も活用する。文字を追っているだけではなかなか理解できないことも、資料や地図で簡単に理解できる場合もある。
- ▷ 「一問一答」のような暗記で終わらないよう、原因・経過・結果・影響などを考えながら学習すること。

現在、模試偏差値45未満の場合

- ▷ まずは、用語の再確認。意味はもちろんだが、その用語をどの時代、どの場面で使用するか確認すること。
- ▷ 問題演習とともに、テーマ別にテキストの本文を注意深く読み取る。年表・地図帳・資料集の活用を十分に。基礎力のチェックを！
- ▷ 基本的事項をしっかり押さえ、用語を単に意味の理解だけに終わらせず、要領よく説明できるようにする。
- ▷ 穴埋め問題対策には、一問一答問題集や穴埋め問題集を使う。基本かつ重要な用語は、説明できるようにしておくこと。

必勝！ 入試直前アドバイス【理科】

＝ センター試験対策 ＝

近年の入試の傾向である「図・グラフからの読み取り問題」、よく見ればいつもの出題内容なのに、見慣れない図・グラフの出現によって、それだけで逃げ腰になってしまう受験生が意外と多い。日頃から読み取る訓練を十分にしておく必要がある。

当然のことながら物理・化学・生物・地学の全科目とも解答する順番を戦略として考えておかなければいけない。センターは時間との勝負だ。この時期から解答順と時間配分を意識した取り組みにスイッチすべきである。問題文の見落とし、マークミスなど、後で悔いの残るようなミスは絶対にしないよう模擬テストなどで訓練しておくことだ。

ここで、理科の得意な人にちょっと一言。試験本番で、問題文の意味がわからない、変な問題だなと思った時、それは“自分が誤解している”と気づくこと。センター試験にそんな奇問は絶対にはないはずである。逆に言えばセンター試験では、力のある受験者が頭をひねって考えなければ解けないような問題も無いということも覚えておいてほしい。

現在、模試得点80点以上の場合

100点こそ君の目標。現時点ではどんどん（本試験より）レベルの高い実戦問題集（例えば「緑本」or「青本」）をやろう。二次試験対策にもなる。

【物理】このレベルの人は、本来の二次学力にも自信がある人だと思うので、基本的にセンター試験対策は二次試験対策の延長線上と捉えておいて問題ない。普段通りにやれば確実に得点につながるはずであるが、油断は禁物。物理の得意な生徒に限って第1問（小問集）で足をすくわれてしまうケースがあるので要注意だ。自信をもって解答したのに答えが選択肢にない時、熱くなって次の問題へ進めず時間を大きくロスしてしまい、結果8割を下回るというケースだ。そんな時は、まず目をつぶって大きく深呼吸し、心の中で「これはセンター試験なのだ」と唱えよう。

【化学】過去受験した模試の間違った分野のチェック。センター形式に余裕を持って向かうために、50分で解答する訓練をする。化学では物理と違って手計算による四則演算によって解答を求めることが多いので電卓は使わずに、計算ミスをなくす訓練が必修だ。読み違い、思い込み、暗算ミス等のケアレスミスをゼロにして期待値を上回ることをのぞむ。

【生物】過去に解いた模試について、正しくなかった選択肢を訂正する作業が知識のツメにはよかろう。自治医科大学や北里大学がマーク式なので、センター対策にはお薦めである。最近のセンター試験は、図・グラフ・表・実験や考察問題の傾向が高いので、問題に慣れておくことと、全分野の問題を1題でも多く解くこと。

【地学】これまでの模試、演習問題等の誤答についての再点検と、誤答と正答について理解を深めておくこと。図表については、特に「大気と海洋」と「宇宙の構成」の分野で、主な数値との関連で理解しておくこと。

現在、模試得点60点以上の場合

得点8割以上が君の目標。そうでなければ相手に差をつけることができない。現時点では（本試験より）少しレベルの高い実戦問題集（例えば「青本」）をやろう。とにかく自信をつけることだ。

【物理】センターは基本問題が中心。それを確実に得点につなげるには、基本演習問題を中心に重要事項と現象の徹底理解が不可欠の条件である。またストレートな公式利用だけではなく、応用的内容まで問われることが予想される、ベクトル量を扱う「運動量と力積」、熱サイクルを使った「気体の状態変化」などは要注意であり、特に習熟が必要な分野であろう。

【化学】試験1カ月前の時期、授業テキストの復習と本番を模した問題演習がやはり効果的である。小問でのつまずきが失敗の原因となっているケースがあるので要注意だ。基本知識と有機は満点を目指す。正誤問題では完全解を要求される。資料集も使い、正確な化学的知識の確認と計算問題の解法を身につけることで、確実に得点アップできる。

【生物】センター試験は、全分野より偏りなくバランスよく出題されるので、テキストの演習問題を再度見直ししておくこと。また、実験考察・図・グラフに関する問題や他の分野の問題にも精通しておくことがボーダーからの脱出のカギとなる。

【地学】面倒でも、これまでの問題演習等の復習が得点力アップに有効である。出題のパターンが決まっているので不得意分野の克服にもつながる。

現在、模試得点60点未満の場合

得点7割が君の目標。平均点以上の点数はとれるようにがんばること。そのためには、特に力を入れる分野と基礎を固める分野を真剣に考える必要がある。得意な分野をひとつでも多く作り、それを確実に得点源となる分野にしていけば良い。

【物理】二次試験の超頻出分野であり、難易度の高い、力学の「円運動」・「単振動」・「万有引力」、電磁気の「コンデンサー」・「電磁誘導」は、逆にセンター試験の出題レベルを考えると、得点しやすい分野であるため、基本事項を徹底的に理解しておこう。どこを攻めれば1点でも多く得点できるかを真剣に考えて取り組むこと。

【化学】何か一つ得点源の分野を作ること。理論分野はちょっと厳しいかもしれないが、有機・無機なら今からでもまだなんとかなる。頻出分野から徹底的に覚え（やらなければそこで終わり）、演習問題を繰り返していけば必ず先が見えてくるはずである。覚えれば即得点になるのだから、まずは覚えること、繰り返すことである。気体、結晶格子、希薄溶液等の計算問題を、注意点を守って数多く解いておくこと。

【生物】この分野なら何とかかなる、というところからまずは取り組んでみよう。単に暗記するのではなく、各分野の関わりなどを考えながら総合的に理解して覚えること。センター試験に難問はない。問題文をよく読み、基本的な知識と結びつけていけば必ず解ける。焦らず自信を持って解読しよう。

【地学】そう多くは無い地学用語とその意味をしっかりと覚えること。テキストや演習に出てくる図や、表は何を意味するかを考え、理解しておく。

必勝！ 入試直前アドバイス【理科】

＝ 二次・私大対策 ＝

「いつまで二次試験対策をやっているのか？」国公立大受験者から毎年問われる質問だ。個人差があるので明確な答えはないが、理科の場合、基本的には本試験の1カ月前位（12月中旬位まで）と考えていい。

しかしもし、完全にやりきれていない分野、気になっている分野、志望大学の出題傾向にある分野なら、それは年内に目途をつけておくべきである。

また私立大専願者の場合、センター試験は通過点（力試し）という意識でいた方がいいだろう。1科目とも不得意科目の許されない私立大専願者にとっては、1月末から始まる私立大本試験に向けてのスケジュールリングで行くのが本道だ。

現在、模試偏差値60以上の場合

12月後半位までは二次試験対策学習でもOKだ。模試の復習を中心にどんどん自分の武器を作り、相手に差をつけられる記述力を身につけたい。このレベルの人は、二次でも“逆転されない”、“逆転できる”実力を確固たるものにしておこう。

【物理】試験当日は、君自身の実力を相手（大学）に見せつけるいいチャンス！日頃の成果を存分に発揮できるよう、志望校の過去問にも目を通しながらテキストを中心に、ややハイレベルの問題に的を絞って答案作成練習も兼ねて復習すること。物理の答案は、①立式の根拠（原理・法則）→ ②立式 → ③解答 が原則。その中でも①が答案の要となるため、解答を記述する際には、なぜそうなるのか→どうしてこの式（公式）が使えるのか、を考えて記述する訓練をすること。

また難関大の記述答案作成では、採点者の気持ちになって見やすい答案を書くような心がけることも大切だ。

【化学】自分の志望校より少し高い問題をやるとよい。難関大の場合、理論化学の計算問題もかなり計算力を問われる場合が多い。あいまいな気持ちで計算に進むのは時間の無駄となるので、解答の方針から立式までを吟味する訓練を日頃からしておくべきだ。有機化学の構造決定も広範囲で深い知識を要求されるため、物質の特性から特有反応まで知識をしっかりと定着させる必要がある。志望校の過去問を徹底的に研究すること。出題頻度の高い問題に精通しておくことはもちろんのこと、志望校の過去問（最低3年分）は年内にやっておくこと。また、最初の基本問題を暗算のミスなどで間違い、大問すべてを失点しないよう注意すること。

【生物】記述力を養うには、格調高い問題の解説を読みこなす（書き写す）こと。早稲田大先進理工や立命館大・東北大・慶應義塾大学などの問題が、テーマをまとめるのには好都合である。防衛医大はタイムリーな話題を生物学的に深めてくれる。

現在、模試偏差値50前後の場合

12月の中旬位をリミットとし二次対策は一次休止。とにかくセンター試験でがっちり貯金を作ることを心がけること。このレベルの人は、センター逃げ切りを目指す、二次でも大きく逆転されないような記述力はつけておかなければいけない。

基本的な問題で失点することのないようにセンター対策問題演習を利用して基礎力を安定させておくこと。また前述のとおり私大受験者にとってはセンター試験は通過点である。気を抜かず本命の私大本試験に向け記述力を磨くこと。

【物理】物理では基本的な法則の理解度と応用力が問われるので、センター試験の後も再度基本事項を復習した上で、問題演習に取り組むこと。その際、難問に手を出すのではなく、標準的なレベルの問題を中心に、明確な立式の根拠のもと、設問の7割を確実に正答できるよう訓練をしておくこと。

【化学】志望大学の出題傾向はしっかりつかんでいるだろうか。過去問も3年分位は、年内に目を通しておくこと。とにかく大半の受験生が解ける設問を確実に正答できれば、大きく逆転されることもない。

【生物】授業で解いた問題を繰り返してみる。この時期はインプットではなく、アウトプットを繰り返して長期記憶を定着させる方がいい。

現在、模試偏差値45未満の場合

国公立大学を第一志望としているなら、この時期から意識をセンター試験一本に切り替えるべきだ。センター対策を通じて二次の基礎力を養っていくという姿勢で臨むこと。とにかくセンター試験で、ある程度の得点を取らなければ二次試験対策の意味もなくなってしまうのだから。

最後まであきらめず、テーマを絞り、得点を重ねていく努力をしていくこと。

【物理】まずは過去問の出題分野・難易度チェックをしっかりとやること。チェックした出題頻出分野の中から、これからできる分野はどれか、確実に得点源にできる分野はどれかを選択し、それらの分野について徹底的に問題演習を繰り返すこと。このとき演習をする問題は、自己の基礎力を確認できる基本問題とし、設問の半分を確実な理解のもと、自分の力で解けるようになることを目標とする。受験生の大半が正答する問題を確実に得点にすることだ。

【化学】苦手分野は基本事項を確認し、得意分野をひとつでも多く作り得点につなげる。特に有機化学は系統的に学習すれば短時間で身につく分野なので狙い目である。国公立大の二次対策はセンター終了後になると思うので、約1カ月の勝負である。志望校の過去問を多く解き、出題傾向から頻出分野を探り出し、とにかくその分野の演習を基本問題を中心に繰り返し、繰り返し解くこと。不安だけが大きくなって、ますます勉強が手につかなくなることはないように。最後まであきらめないこと。努力すればするほど不安は解消され、勉強にも集中できるようになるはずだ。

【生物】センター試験で目標の得点がとれたら、あとは二次試験で差をつけられないよう、細かく、やさしい設問で点を稼いでいけば良い。生物を得意としている他の受験生に大きく差をつけられないためには、やはり得意分野をひとつでも多く作っておくこと。センター試験対策を利用して知識を確実に増やしていくのが一番の早道である。